

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 16日

中施策事業名	病後児保育事業	部課名	健康福祉部・こども保育課
		作成者	小川 正寿
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	緊急時に対応できる体制を整える		
④中施策事業の対象	病後児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	児童の病後にも安心して預けられるところがあるということが広く知られ、必要時に利用されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 病後児保育室事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
病後児保育室の登録人数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	200	150	150	150	0	0
	実績値	94	80				
単位	人						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				7,712千円	7,558千円	
	a 事業費合計			7,712千円	7,558千円	7,542千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				2,935千円	3,090千円
③ コスト (①－②)				4,777千円	4,468千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				69 円	65 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 子どもを安心して生み育てられるまちを目指す上で、病後児保育を実施することは必要不可欠な事業であるにとらえている。 令和5年度には延べ55人の利用があり、必要としている人がサービスを利用できている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	「広報とよあけ」及び市ホームページ、施設案内等を記述したリーフレットを活用し、継続的な周知活動が求められる。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	「広報とよあけ」及び市ホームページ、施設案内等を記述したリーフレットを活用し、継続的な周知活動を行なっていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 16日

中施策事業名	認可外保育施設事業	部課名	健康福祉部・こども保育課
		作成者	小川 正寿
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	認可外保育サービスを必要とする人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	認可外保育サービスを必要とする全ての人がサービスを受けることができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 認可外保育施設の運営に対する補助事業 ・ 認可外保育施設の指導監査		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
認可外保育施設の入園実績人数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	40	40	40	40	0	0
	実績値	28	24				
	単位	人					
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				12, 141千円	12, 641千円	
	a 事業費合計			12, 141千円	12, 641千円	10, 515千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				6, 401千円	7, 649千円	7, 558千円
③ コスト (①－②)				5, 740千円	4, 992千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				83 円	73 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 待機児童解消のためには、認可保育所における利用定員の拡大を図るとともに、認可外保育施設による児童の受入れ確保が求められている。 このことから、認可外保育施設の運営に要する経費の補助を行う中で受入確保を図るとともに、適切に保育運営がなされているかの指導確認（監査）を行う必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	施設への補助金は、今後も国県支出金（特定財源）を活用する中で適切に交付を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き、認可外保育施設への補助を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 16日

中施策事業名	保育所等整備事業	部課名	健康福祉部・こども保育課
		作成者	小川 正寿
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	今後保育所等を利用しようとする者及び保育所等整備事業者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	利用者がより多くの選択肢の中から保育所等の利用を選択できるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	市立保育所等の管理、教育・保育施設等の整備、地域型保育事業の認可、地域型保育事業の指導監督		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
保育所等の利用定員数（10月1日時点）	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	1,778	1,778	1,707	1,707	0	0
	実績値	1,718	1,718				
単位	人						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和04年度	令和05年度	令和06年度	
① 総事業費 (a+b)				104, 342千円	159, 044千円		
	a 事業費合計			104, 342千円	159, 044千円	295, 642千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円	5, 056千円
③ コスト (①－②)				104, 342千円	153, 988千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 516 円	2, 238 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 子どもを安心して産み育てられるまちをつくるために、計画的な保育施設の整備を行う中で利用定員の拡大を図ることは待機児童解消に必要不可欠な取り組みである。このような中で、待機児童解消のため、私立の保育園や認定こども園などを整備するなどして利用定員の拡大を図ってきた。令和5年度では、公立保育園を1園廃止し、定員拡大を伴う民営化（令和6年4月開園）の準備を行った。このほか公立保育園の老朽化対策として、保育室や外壁などの大規模改修工事を実施（西部保育園）した。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	公立保育園の老朽化対策として、引き続き、保育室や外壁などの大規模改修工事を実施（館保育園）していく。また令和6年4月から民営化した園が令和7年4月から定員拡大するための改修工事の補助をしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	施設整備等にあたっては、多大な経費が伴うことから国県支出金などの特定財源の確保が求められる。財源確保を行ったうえで、民間施設が整備等を行うための経費について、引き続き、補助を継続して行っていく。このほか、老朽化する公立施設のあり方を検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 7月 10日

中施策事業名	保育所等運営事業	部課名	健康福祉部・こども保育課
		作成者	小川 正寿
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	保育所等の利用者及び保育所等運営事業者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	質の高い保育が提供されており、保育所等の利用者が安心かつ快適に利用できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	保育所等の入所、教育・保育給付、市立保育所の運営、保育士の管理及び研修、保育料及び利用者負担額、保育所等への補助金、幼稚園への補助金		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
待機児童数（潜在的待機児童数を含む。10月1日時点）	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	80	70	60	50	0	0
	実績値	146	173				
単位	人						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				1,906,253千円	1,926,561千円	
	a 事業費合計			1,906,253千円	1,926,561千円	2,165,380千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				1,075,391千円	1,125,851千円	1,158,064千円
③ コスト (①－②)				830,862千円	800,710千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				12,073 円	11,635 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 計画的な施設整備などにより、令和5年4月1日現在における国基準に基づく待機児童数は発生していない。しかしながら、評価指標である「待機児童数（潜在的待機児童数を含む。10月1日時点）」からみると、前年度より数値が増加し、改善がなされていないのが実態である。潜在的な待機児童の解消に向けて、老朽化する公立施設の在り方を検討するとともに、計画的な施設整備などを行う中で利用定員の拡大を図っていく。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和7年度から令和11年度までを計画期間とする「子ども・子育て支援事業計画」の策定や保護者の利便性や保育士業務の負担軽減を考慮し、保育所でのICT化を進めていく。 また、令和8年度から実施を控えている「こども誰でも通園制度」についての検討や間米南部地区の宅地開発等による園児数の動向を注視していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	潜在的な待機児童の解消のため、「子ども・子育て支援事業計画」を沿って老朽化する公立施設の在り方を検討するとともに、計画的な施設整備などを行う中で利用定員の拡大を図っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 16日

中施策事業名	女性の復職支援プログラム事業	部課名	健康福祉部・こども保育課
		作成者	小川 正寿
①めざすまちの姿	36 女性が職場や地域で活躍し続けている		
②大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる		
③中施策	職場や地域において女性の活躍の場を増やす		
④中施策事業の対象	潜在保育士、保育士を目指そうと思っている人、地域において保育や子育て支援等の仕事に関心を持っている人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内の保育園等に安心して子どもを預けることができ、職場や地域で活躍できると考えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 子育て支援員研修開催事業 ・ 保育士資格取得支援補助金事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
プログラムを利用して復職した人の数（隔年実施）	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	5	0	5	0	0
	実績値	0	0				
単位	人						
保育士資格取得支援補助金を利用した人の数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	4	4	4	4	4	0
	実績値	3	2				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				31千円	57千円	
	a 事業費合計			31千円	57千円	40千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				31千円	57千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	1 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 子育て支援員研修は、令和5年度は実施予定であったが、開催規定人数に達しなかったため、開催できなかった。しかし、女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくるためには、施設等で就職するための資格取得（子育て支援員）を支援することは重要な取り組みである。 保育士資格取得支援補助金は、令和5年度は2人の利用があり、保育士資格取得を支援できた。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	子育て支援員研修は隔年実施であったが、コロナ禍以降、愛知県開催の同研修がオンライン研修となり、豊明市における令和7年度子育て支援員研修は受講申込が開催規定人数を見込めない状況であるため開催を見送ることとし、保育士資格取得のための補助や潜在保育士の復職支援を行う。また、子育て支援員資格を取得した人材をいかに就労につなげていくかを模索していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き、子育て支援員の資格を取得した人材をいかに就労につなげていくかを模索していくとともに、保育士資格取得のための補助を継続していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 子育て支援員研修開催事業	内容、理由、時期等 開催規定人数の見込みがないため、令和7年度以降については廃止する